

# 基本的なHTML (Basic HTML)

Tag	説明
<a href="#"><u>&lt;!DOCTYPE&gt;</u></a>	Defines the document type <!DOCTYPE html>は、文書がHTML5で作成されたものであることを宣言するために、文書の先頭(<html>タグよりも上)に記述するDOCTYPE宣言(Document Type Definition、DTD、文書型宣言)です。
<a href="#"><u>&lt;html&gt;</u></a>	Defines an HTML document HTML文書であることを定義します。先頭部にある<html>～末尾部の</html>の間に、<head>と<body>がそれぞれ一つずつ必要となります。 html要素には、lang属性で言語を指定することができます。例えば、日本語の場合はlang="ja"、英語の場合にはlang="en"を指定します。
<a href="#"><u>&lt;head&gt;</u></a>	ドキュメントの基本情報部分(head)で、本文は(body)です。 <head>タグは、文書に関する基本情報(ヘッダー情報)のことです。head要素を正確に定義するなら、「そのHTML文書に関するメタデータを集めたもの」ということになります。 メタデータとは、その文書に関する情報のことで、例えば、<title>(タイトル)・<base>(基準URL)・<link>(リンク情報)・<style>(スタイルシート)・<meta>(メタデータ)などが挙げられます。これらのメタデータを表すタグは、すべて<head>～</head>の中に配置します。
<a href="#"><u>&lt;title&gt;</u></a>	ドキュメント(ページ)のタイトル・表題 <title>タグは、文書にタイトルをつける際に使用します。<title>タグで文書のタイトルを指定する場合には、一つの文書に一つだけ、<head>～</head>の中に配置します。一つの文書内で複数の<title>を指定することはできません。 <title>～</title>に指定する文書のタイトルは、検索エンジンの検索結果画面やユーザーの利用するブラウザのブックマーク欄などに表示されるので、文書の内容を表すものを指定する必要があります。
<a href="#"><u>&lt;body&gt;</u></a>	Defines the document's body ドキュメント(ページ)の本文でブラウザにより表示される部分 <body>タグは、文書の本体を表す際に使用します。文書の本体とはブラウザ上に表示されるメインコンテンツのことです。 HTML文書では、<body>要素は<html>～</html>の中に一つだけ配置します。<body>～</body>の中には見出し・段落・表・フォームなどのコンテンツを配置します。
<a href="#"><u>&lt;h1&gt; to &lt;h6&gt;</u></a>	header : ドキュメント(ページ)の見出し 数値が小さいほど高いランクの見出しとなります。<h1>が最も高位の大見出しで、<h6>が最も低位の小見出しです。
<a href="#"><u>&lt;p&gt;</u></a>	段落改行(paragraph) : Wordのリターンキー
<a href="#"><u>&lt;br&gt;</u></a>	段落無し改行(break) : Wordのshift+リターンキー

<a href="#">&lt;hr&gt;</a>	主題の変更 (horizontal rule) <hr>タグは、段落レベルのテーマの区切り、セクション内における話題の区切りを表す際に使用します。 例えば、物語におけるシーンの変わり目や、参考書のセクション内で別の話題に移る箇所などです。
<a href="#">&lt;!--****--&gt;</a>	コメントを記入;****部は表示されないし、HTML等は実行されないなので仮編集に使う、編集用メモなどを自由に書き込むことができる。
<b>書式 (Formatting)</b>	
Tag	説明
<a href="#">&lt;acronym&gt;</a>	****HTML5では使用しない
<a href="#">&lt;abbr&gt;</a>	略語や頭字語であることを示す
<a href="#">&lt;address&gt;</a>	address:ドキュメント、記事の著作者のアドレス等の連絡先。連絡先と定義付けの意味であり、全てのメールアドレスで使用する意味ではない。
<a href="#">&lt;b&gt;</a>	bold:テキストの太文字 <b>は、他により適切な要素が存在しない場合の最終手段として使用するべきものです。特に、見出しには<b>ではなく、<h1>-<h6>を使用してください。また、強勢する箇所を示す場合には<em>、重要性を示す場合には<strong>、テキストをハイライトして目立たせる場合には<mark>を使用します。
<a href="#">&lt;bdi&gt;</a>	ヘブライ文字やアラビア文字等右から表示する場合
<a href="#">&lt;bdo&gt;</a>	Bi-Directional Isolation. Bi-Directional Override
<a href="#">&lt;big&gt;</a>	****HTML5では使用しない
<a href="#">&lt;blockquote&gt;</a>	block+quotationの造語: <BLOCKQUOTE>~</BLOCKQUOTE>で囲まれた部分が引用・転載であることを表します。 <BLOCKQUOTE>タグは、比較的長めの文章を引用・転載する際に使用します。改行を必要としない程度の短い文章を引用・抜粋する際には、<Q>タグを使用する。 Internet Explorer等の一般的なブラウザでは、囲まれた部分は上下に1行分のスペースが挿入され、左右もインデント(字下げ)され、上下左右にスペースが空きます。
<a href="#">&lt;center&gt;</a>	****HTML5では使用しない
<a href="#">&lt;cite&gt;</a>	<CITE>とはCitationの略で、出典・参照先を表します。文章自体を引用するのではなく、書名・規格名・作者名などを引用する際に使用します。Internet ExplorerやNetscape Navigator等の一般的なブラウザではイタリック体で表示されます

<a href="#">&lt;code&gt;</a>	コンピューターのコード <code>タグは、プログラムなどのコードであることを示す際に使用します。例えば、HTMLやXMLの要素名や属性名、ファイル名、プログラムなどのコンピューターが認識する文字列です。
<a href="#">&lt;del&gt;</a>	消去した文字を取り消し線(delete)で表示 <DEL>~</DEL>で囲まれた部分が削除されたことを示します。例えば、すでに新しい内容のテキストがあって、その違いを示したい場合などに用います。 一般的なブラウザでは、<DEL>~</DEL>で囲まれた部分に打ち消し線が付きます。
<a href="#">&lt;dfn&gt;</a>	用語の定義<DFN>タグはDefinitionの略で、何らかの用語を定義(説明)する際に、文章中に出てくるその定義用語を明示するために使用します。定義用語が文章中に何回も出てくる場合には、最初の一回目だけを<DFN>~</DFN>で囲むのが一般的です。
<a href="#">&lt;em&gt;</a>	強調文字 <EM>タグはEmphasisの略で、テキストを強調する際に使用します。
<a href="#">&lt;font&gt;</a>	***HTML5では使用しない
<a href="#">&lt;i&gt;</a>	italic: 多くの場合;イタリック表示
<a href="#">&lt;ins&gt;</a>	文字が挿入されたことを明示する <INS>はInsertの略で、<INS>~</INS>で囲まれた部分が後から追加された部分であることを示します。変更経過を示す必要がある場合に使用する。
<a href="#">&lt;kbd&gt;</a>	keyboardからの入力を定義 「非推奨」ではないが、あまり利用されていない。
<a href="#">&lt;mark&gt;</a>	文字にハイライトマークを付ける(defaultは黄色)
<a href="#">&lt;meter&gt;</a>	横棒でスカラー測定値(ダウンロード進行度) <meter>タグは、下限や上限などがあらかじめ分かっている、規定範囲内の測定値を示す際に使用します。例えば、ディスク使用量、検索結果の関連性、候補者の得票などです。測定値は、必須属性のvalue属性で指定します。 value属性以外にも、下限・上限・低い・高い・最適とされる値を指定する属性が用意されています。これらの属性は必須属性ではありませんが、下限と上限を指定しない場合には範囲が0~1と見なされます。この場合、value属性で指定する値を0~1の範囲内にする必要があります。
<a href="#">&lt;pre&gt;</a>	文字フォントやならびをあらかじめ決めておく(例えば、詩や俳句) <pre>タグは、半角スペースや改行をそのまま表示する際に使用します。<pre>とはpreformatted textの略で、日本語では「フォーマット(整形)済みのテキスト」という意味になります。つまり、見やすいように半角スペースや改行などで形が整えられたテキストのことです。
<a href="#">&lt;progress&gt;</a>	progress: タスクの進行度を表わす
<a href="#">&lt;q&gt;</a>	quotationの略: 引用<blockquote>で統一可

<a href="#">&lt;rp&gt;</a>	漢字のルビに使用 <rt>はRuby Textの略でルビのテキストを、<rp>はRuby Parenthesesの略でルビのテキストを囲む括弧等の記号を、それぞれ指定します。<rt>と<rp>は、<ruby>～</ruby>の中で子要素として使用します。<rp>～</rp>の内容は、<ruby>タグに対応したブラウザでは無視されます。<ruby>タグに対応していないブラウザでは、漢(かん)字(じ) のように表示されます。
<a href="#">&lt;rt&gt;</a>	
<a href="#">&lt;ruby&gt;</a>	
<a href="#">&lt;s&gt;</a>	文字を訂正したことを明示: 取り消し線付きテキスト (strikethrough text) <s>タグは、すでに正確ではなくなった、すでに関係なくなった内容を表す際に使用します。 <s>は、文書の編集を表す際に使用するのには適切ではないとされています。削除されたテキスト箇所を表す場合には、<s>ではなく<del>を使用してください。
<a href="#">&lt;samp&gt;</a>	コンピュータプログラムからの出力サンプルであることを定義 <b>「非推奨」ではないが、あまり利用されていない。</b>
<a href="#">&lt;small&gt;</a>	テキストサイズを小さくする <small>タグは、免責・警告・法的規制・著作権・ライセンス要件などの注釈や細目を表す際に使用します。その箇所が重要であるという意味や強調する役割、反対に重要性を弱める意味などはありません。 <small>はメインコンテンツではなく、あくまで注釈や細目などの短いテキストに使用する要素です。<small>を複数の段落、複数のリスト、複数のセクションなどの長いテキストに対して使用するべきではありません。例えば、利用規約がメインコンテンツとなるページで、全体を <small> ~ </small> で囲むような使い方は適切ではありません。
<a href="#">&lt;strike&gt;</a>	<b>***HTML5では使用しない</b>
<a href="#">&lt;strong&gt;</a>	重要な用語と定義 <strong>タグは、強い重要性を表す際に使用します。<strong>でテキストの一部の重要性を変更しても、文自体の意味は変更されません。
<a href="#">&lt;sub&gt;</a>	subscript text; 下付文字
<a href="#">&lt;sup&gt;</a>	上付き文字: <sup>タグはsuperscriptの略で、上付き文字を表す際に使用します。
<a href="#">&lt;template&gt;</a>	<template>の部分は表示されない。
<a href="#">&lt;time&gt;</a>	日時: <time>タグは、日付や時刻を表記する際に、グレゴリオ暦による日付や24時間表記の時刻で正確に示す際に使用します。日時を記述するのに、必ず<time>を使用しなくてはならないわけではなく、コンピュータやブラウザが理解できるように日時を示すことが目的です。



<a href="#">&lt;tt&gt;</a>	***HTML5では使用しない
<a href="#">&lt;u&gt;</a>	多くの場合は下線:<U>は非推奨要素です。テキストに下線(アンダーライン)を引く際には、できるだけスタイルシートを利用してください。スタイルシートでは、<span style="text-decoration: underline">~</span>などと記述します。
<a href="#">&lt;var&gt;</a>	変数宣言: 非推奨
<a href="#">&lt;wbr&gt;</a>	Word Break Opportunityで、文字が長い場合の改行場所を指定する(日本語ではない)
<b>ユーザー入力枠作成 Forms and Input</b>	
Tag	説明
<a href="#">&lt;form&gt;</a>	ユーザーが入力するフォームメールなどの枠作成 <FORM>は入力・送信フォームを作成する際に使用します。 <FORM>~</FORM>の間に、<INPUT>・<SELECT>・<TEXTAREA>等のタグにより、一行テキストボックス・ボタン・チェックボックス・ラジオボタン・セレクトボックス・スクロールテキストボックス等の部品を配置します。 フォームに入力されたデータは、送信ボタンを押すことでCGIプログラム等へ送信され、一定の処理が行われます。その際の送信先はaction属性で、転送方法はmethod属性で、データ形式はenctype属性でそれぞれ指定します。
<a href="#">&lt;input&gt;</a>	ユーザーが入力を制御する <INPUT>タグはテキスト入力欄や実行ボタン等、フォーム(<FORM>~</FORM>)を構成する部品を作成するタグです。type属性の値により、一行テキストボックス・チェックボックス・ラジオボタン・実行ボタン・リセットボタン等の部品となります。
<a href="#">&lt;textarea&gt;</a>	<TEXTAREA>は複数行の入力フィールドを作成するタグです。 <TEXTAREA>~</TEXTAREA>内に記述されたテキストは、入力フィールドの初期値として表示されます。
<a href="#">&lt;button&gt;</a>	クリックできるボタンを作る <INPUT>タグで作成するボタンと機能的には同じですが、<BUTTON>タグではボタン上のテキスト表示を変えたり、画像を表示させたり、それらを組み合わせることができます。 type属性ではsubmit(送信ボタン)、reset(リセットボタン)、button(汎用的に使える押しボタン)のいずれかを指定してください。初期値はtype="submit"で、送信ボタンを作成します。
<a href="#">&lt;select&gt;</a>	ドロップダウンで、候補を選択する(例えば、都道府県を選ぶ) <SELECT>はセレクトボックスを作成するタグです。初期値ではプルダウン式のメニューとなりますが、size属性で選択肢の表示行数を指定することができます。セレクトボックス内の選択肢は<OPTION>タグで指定します。
<a href="#">&lt;optgroup&gt;</a>	option+groupの造語: 上の選択肢をグループ化して名前を付ける
<a href="#">&lt;option&gt;</a>	選択肢の定義付け: 都道府県を選ぶなどの時に使用。
<a href="#">&lt;label&gt;</a>	ユーザー入力欄に名前を付ける

<a href="#">&lt;fieldset&gt;</a>	関連する要素を囲む
<a href="#">&lt;legend&gt;</a>	上記の囲いに名前を付ける
<a href="#">&lt;datalist&gt;</a>	
<a href="#">&lt;output&gt;</a>	
<b>文書埋め込み Frames</b>	
<b>Tag</b>	<b>説明</b>
<a href="#">&lt;frame&gt;</a>	****HTML5では使用しない
<a href="#">&lt;frameset&gt;</a>	****HTML5では使用しない
<a href="#">&lt;noframes&gt;</a>	****HTML5では使用しない
<a href="#">&lt;iframe&gt;</a>	HTMLに他のドキュメントを埋め込む<IFRAME>はInline Frameの略です。<IFRAME>を使用すると、<FRAMESET>のようにウィンドウを水平・垂直に分割する形式だけではなく、ウィンドウの中に独立して表示される形式のインラインのフレームが作成できます。
<b>画像 Images</b>	
<b>Tag</b>	<b>説明</b>
<a href="#">&lt;img&gt;</a>	<IMG>はImageの略で、画像を表示するタグです。表示する画像ファイルはsrc属性(srcはsourceの略)で指定します。WEBに使用できる画像形式は、現在のところGIF・JPEG・PNGの三種類ですが、それぞれ特徴があるので、状況により使い分けてください。
<a href="#">&lt;map&gt;</a>	ブラウザでクリックできる画像領域 HTMLタグでひとつの画像に複数のリンクを設定することを、クライアントサイドイメージマップといいます。 クライアントサイドイメージマップでは、マップ全体を<MAP>タグで定義し、<map>~</map>間に<area>タグでリンク領域とそのリンク先を指定します。また、<img>タグでマップを適用する画像とその画像が使用するマップ名を指定します。
<a href="#">&lt;area&gt;</a>	クリックできる画像の場所
<a href="#">&lt;canvas&gt;</a>	図形を埋め込む 標準のHTMLやJavaScriptだけで、グラフやゲームグラフィックスなどの図形をすばやく表示できる
<a href="#">&lt;figcaption&gt;</a>	caption for <figure> element.
<a href="#">&lt;figure&gt;</a>	図表であることを示す際に使用します。ここで言う図表とは、文書の本文(メインフロー)から参照されるようなイラスト・図・写真・ソースコードなどのことです。
<a href="#">&lt;picture&gt;</a>	スマホ対応策として、機器幅により画像サイズを変化させるのではなく、画像自体を入れ替える場合に使用する。

<a href="#">&lt;svg&gt;</a>	<p>SVG : Scalable Vector Graphics.          SVG defines vector-based graphics in XML format.          SVGとは、XMLの記法を用いて画像を図形の集合として表現する記述言語の一つ。2次元のベクター形式の画像ファイル形式の一つでもあり、ファイルに保存する場合の標準の拡張子は「.svg」。</p>
-----------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## Audio / Video

Tag	説明
<a href="#">&lt;audio&gt;</a>	音声を再生する
<a href="#">&lt;source&gt;</a>	動画や音声などのURLや種類を指定する
<a href="#">&lt;track&gt;</a>	The <source> tag allows you to specify alternative video/audio/image files which the browser may choose from, based on its media type, codec support or media query.
<a href="#">&lt;video&gt;</a>	ビデオや動画を再生する

## Links

Tag	説明
<a href="#">&lt;a&gt;</a>	ハイパーリンク<a>は、anchor(アンカー)の略です。
<a href="#">&lt;link&gt;</a>	<p>リンクする外部スタイルシート</p> <p>&lt;link&gt;タグは、リンクする外部リソースを指定する際に使用します。外部リソースとは、例えば、HTMLファイル、CSSファイル、RSSファイルなど、現在の文書ファイルに関連している外部ファイルのことです。&lt;link&gt;タグは、&lt;head&gt;~&lt;/head&gt;の中に記述します。</p> <p>&lt;link&gt;タグを指定する場合には、href属性とrel属性が必須です。href属性とrel属性が指定されていない場合には、&lt;link&gt;タグの指定は無効となります。href属性には、リンクする外部ファイルのURLを指定します。</p> <p>rel属性にはリンクタイプを指定します。具体的には、現在のファイルとリンク先の外部ファイルとの関係性を表すキーワードを指定します。</p>
<a href="#">&lt;nav&gt;</a>	ナビゲーションリンク<nav>は、ナビゲーションであることを示す際に使用します。ナビゲーションとは、ウェブサイト内の他のページへのリンクや、ページ内リンクなどのことです。

## リスト Lists

Tag	説明
<a href="#">&lt;ul&gt;</a>	<p>順位付けなしのリスト</p> <p>&lt;ul&gt;タグはunordered listの略で、順序のないリストを表示する際に使用します。リスト項目は、&lt;li&gt;タグで指定します。</p> <p>&lt;ul&gt;タグで作成されるのは順序のないリストなので、リスト項目の順序を変えても文書の意味は変わりません。順序のあるリストを作成する際には&lt;ol&gt;タグを使用してください。</p>

<a href="#">&lt;ol&gt;</a>	順位付けリスト <ol>タグはordered listの略で、順序のあるリストを表示する際に使用します。リスト項目は、<li>タグで指定します。 <ol>タグで作成されるのは順序のあるリストなので、リスト項目の順序を変えると文書の意味が変わってしまうはずですが、順序のないリストを作成する際には<ul>タグを使用してください。
<a href="#">&lt;li&gt;</a>	リスト項目
<a href="#">&lt;dir&gt;</a>	HTML5では使用しない。
<a href="#">&lt;dl&gt;</a>	定義・説明付リスト (definition list) <dl>~</dl>の中に、<dt>タグで定義・説明される言葉を、<dd>タグでそれに対応する説明を配置してリストを作成します。例えば、用語の定義リストを作成したり、何かの手順を箇条書きで説明する場合などに使用します。 例えば電話帳で、氏名:所属;電話番号;住所;メールアドレス;所属など
<a href="#">&lt;dt&gt;</a>	Definition Termの略で、定義語を意味します。
<a href="#">&lt;dd&gt;</a>	Definition Descriptionの略で、定義の説明

## 表 Tables

Tag	説明
<a href="#">&lt;table&gt;</a>	表 (table) <table>タグは、テーブル(表)を作成する際に使用します。テーブルの基本的な構造は、<table>~</table>の中に <tr>~</tr>で表の横一行を定義して、さらにその中に<th>~</th>や<td>~</td>でセルを定義します。テーブルは行(横行)とカラム(縦列)を持ちますが、空の行やカラムを持つことはできません。 テーブルの各セルには見出しを定義するヘッダセル(<th>~</th>)と、データを定義するデータセル(<td>~</td>)があります。ヘッダセル内のテキストは、一般的なブラウザでは太字でセンタリングされて表示されます。 テーブルのキャプションは<caption>で指定します。また、テーブルのヘッダ・フッタ・本体は、<thead>・<tfoot>・<tbody>で定義します。これらの要素は省略することもできますが、指定しておけばテーブル構造がより明確になるでしょう。
<a href="#">&lt;caption&gt;</a>	表題 (caption)
<a href="#">&lt;th&gt;</a>	テーブル(表)の見出しセル (table header)を作成する
<a href="#">&lt;tr&gt;</a>	表の列 (table row)を作成
<a href="#">&lt;td&gt;</a>	テーブル(表)のデータセル (table data)を作成する
<a href="#">&lt;thead&gt;</a>	テーブル(表)のヘッダ行 (table header)を定義する
<a href="#">&lt;tbody&gt;</a>	テーブル(表)のボディ部分を定義する
<a href="#">&lt;tfoot&gt;</a>	表の脚注 (table footer)
<a href="#">&lt;col&gt;</a>	表の列 (column)部分を定義する



<a href="#">&lt;colgroup&gt;</a>	表の列をグループ化する(column group)
表示方式と文書構造 Styles and	
Tag	説明
<a href="#">&lt;style&gt;</a>	書式(style)を記述 <style>タグは、スタイルシートを記述する際に使用します。通常は<head>~</head>の中に配置しますが、head要素内に記述することで文書単位でスタイルを指定することができます。style要素のtype属性は、スタイリング言語(スタイルシートのMIMEタイプ)を指定します。例えば、CSSの場合にはtype="text/css"となります。type属性は必須属性ではなく、指定しない場合にはtype="text/css"がデフォルトで適用されます。
<a href="#">&lt;div&gt;</a>	ひとかたまりの範囲(division)として定義する(ブロック要素) <div>タグは、ひとかたまりの範囲として定義する際に使用します。<div>には特別な意味はありませんが、<div>~</div>で囲まれた範囲を一つのグループとしてまとめることができます。ページレイアウトやスタイリングを指定する際に、CSSを適用するためのコンテナ要素として使用されることの多いタグです。
<a href="#">&lt;span&gt;</a>	ひとかたまりの範囲として定義する(インライン要素) <span></span> <span>はそれ自身では何も意味を持っていませんが、style属性・class属性・lang属性・dir属性などの属性と一緒に使用する場合に便利な要素です。これらの属性と組み合わせることで、<span>~<span>で囲まれた範囲にスタイルシートやスクリプトを適用したり、その範囲の言語や表記方向を指定することができます。
<a href="#">&lt;header&gt;</a>	文書のヘッダ一部(header)
<a href="#">&lt;footer&gt;</a>	文書のフッター一部(footer) フッタとは、そのセクションに関する情報のことで、一般的には、誰が書いたのか、関連文書へのリンク、著作権などの情報が含まれます。作者の連絡先情報は<address>で示しますが、これを<footer>~</footer>の中に入れても良いでしょう。
<a href="#">&lt;main&gt;</a>	
<a href="#">&lt;section&gt;</a>	
<a href="#">&lt;article&gt;</a>	記事であることを示す
<a href="#">&lt;aside&gt;</a>	補足記事であることを示す
<a href="#">&lt;details&gt;</a>	備考や操作手段などの詳細情報(detail)を示す
<a href="#">&lt;dialog&gt;</a>	
<a href="#">&lt;summary&gt;</a>	
<a href="#">&lt;data&gt;</a>	
文書基本情報 Meta Info	
Tag	説明

<a href="#">&lt;head&gt;</a>	<p>&lt;head&gt;タグは、文書のヘッダ情報を表す際に使用します。ヘッダ情報とは、その文書に関する情報のことです。head要素を正確に定義するなら、「そのHTML文書に関するメタデータを集めたもの」ということになります。</p> <p>メタデータとは、その文書に関する情報のことで、例えば、&lt;title&gt;(タイトル)・&lt;base&gt;(基準URL)・&lt;link&gt;(リンク情報)・&lt;style&gt;(スタイルシート)・&lt;meta&gt;(メタデータ)などが挙げられます。これらのメタデータを表すタグは、すべて&lt;head&gt;～&lt;/head&gt;の中に配置します</p>
<a href="#">&lt;meta&gt;</a>	<p>&lt;meta&gt;タグは、その文書に関する情報(メタデータ)を指定する際に使用します。メタデータとは、“情報に関する情報”のことですが、HTMLの仕様では“その文書に関する様々な情報”を意味します。</p> <p>HTML文書のメタデータは&lt;head&gt;～&lt;/head&gt;の中に、&lt;title&gt;(タイトル)・&lt;base&gt;(基準URL)・&lt;link&gt;(リンク情報)・&lt;style&gt;(スタイルシート)・&lt;script&gt;(スクリプト)などのタグで指定しますが、これらのタグで表現できないその他の様々なメタデータは&lt;meta&gt;で表します。</p> <p>&lt;meta&gt;タグは&lt;head&gt;～&lt;/head&gt;の中に配置します。meta要素を指定する際には、name属性、http-equiv属性、charset属性のうち、少なくとも一つを指定する必要があります。また、name属性、http-equiv属性を指定する際には、必ずcontent属性とセットで利用します。セットで利用することでメタデータの定義(名前)とその内容が関連付けられます</p>
<a href="#">&lt;base&gt;</a>	<p>&lt;base&gt;タグは、相対パスの基準URIを指定する際に使用します。&lt;base&gt;タグを使用する場合には、一つの文書に一つだけ&lt;head&gt;～&lt;/head&gt;の中に配置します。一つの文書内で複数の&lt;base&gt;を指定することはできません。</p>
<a href="#">&lt;basefont&gt;</a>	HTML5では使用しない
<b>プログラム      Programming</b>	
<b>Tag</b>	
<a href="#">&lt;script&gt;</a>	<p>ユーザー側での(JavaScript)によるプログラム制御</p> <p>&lt;script&gt;タグは、文書にJavaScriptなどのスクリプトや、データブロックを組み込む際に使用します。&lt;script&gt;タグは、&lt;head&gt;～&lt;/head&gt;の中に配置することが多いですが、&lt;body&gt;～&lt;/body&gt;の中に配置しても問題ありません。</p>
<a href="#">&lt;noscript&gt;</a>	ユーザー側での(JavaScript)によるプログラム制御が作動しない場合のコメント
<a href="#">&lt;applet&gt;</a>	HTML5では使用しない

<a href="#"><u>&lt;embed&gt;</u></a>	<embed>タグは、外部アプリケーションやインタラクティブなコンテンツ、例えば、Flashなどのプラグインを必要とするデータをHTML文書に埋め込む際に使用します。
<a href="#"><u>&lt;object&gt;</u></a>	<object>タグは、文書に外部リソースを埋め込む際に使用します。<embed>がプラグインを必要とするデータを埋め込むのに対して、<object>には外部リソース全般を指定することができます。
<a href="#"><u>&lt;param&gt;</u></a>	<param>タグは、<object>タグでプラグインデータを埋め込んだ際に呼び出されるプラグインのパラメータを指定する際に使用します。